

指定管理者評価シート

事業名	札幌市豊平川さけ科学館運営維持管理業務	所管課(電話番号)	建設局みどりの推進部みどりの管理課(211-2536)
-----	---------------------	-----------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市豊平川さけ科学館 ①本館 ②学習棟 ③実習棟	所在地	南区真駒内公園2-1
告示年月日	①昭和59年10月2日 ②昭和61年11月11日 ③平成15年3月31日(開設時期)	面積	①579.2㎡ ②121.5㎡ ③220.61㎡
公園種別	-		
目的	豊平川におけるさけの回帰事業を通して生物や自然環境の保全に関する知識の普及啓発を行い、自然の豊かな都市環境の形成に寄与する。		
事業概要	さけのふ化並びに成長過程を観察する場の提供、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示、さけに関する学習の指導及び豊平川におけるさけの回帰に関する事業		
主要施設	本館、学習棟、実習棟		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市公園緑化協会		
指定期間	平成28年4月1日～平成32年3月31日		
募集方法	公募 非公募の場合、その理由:		
指定単位	施設数:1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	さけのふ化及び成長過程を観察する場の提供に関する業務、豊平川におけるさけの回帰に関する業務、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示とさけに関する学習の指導に係る業務及び環境教育に資するイベントの計画実施業務		
3 評価単位			
	施設数:1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 平成28年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 当団体の運営方針である、公平・公開・効率・協働・環境の「5つのK」を基に、以下の①～⑤に示す「管理運営の基本方針」を策定した。 ① 平等・公平な利用の機会を確保し、さけ科学館の公共福祉増進の場としての利用効果を高める。 ② 関係法令・条例等を遵守し、さけ科学館の利用者や市民の声の反映に努め、開かれた管理運営による安全で安心、快適な利用環境を提供する。 ③ さけ科学館の資源・施設の長寿命化を念頭に置き、効率的な管理運営による経費削減を図り、安定した質の高いサービスを提供する。 ④ さけ科学館を環境教育のコミュニティ活動の拠点と位置付け、市民や団体、関係諸機関との連携・協働を推進し、集いの場としての魅力を高める。	来館者の意見・要望等や、実習依頼・解説案内・博物館実習・職場体験等の依頼は、可能な限り受け入れるよう努め、公平・平等性については適正に確保することができた。 管理運営においては、関係法令等を厳守し、適切な利用環境を提供することができた。	A B C D 基本方針を定め、適正な管理運営に取り組んでいる。

⑤ 札幌の水辺環境のシンボルであるサケを守り育てる活動を通じて、水辺環境の保全とともに、市民の環境を大切に思う心をはぐくむ。

体験放流・サケフェスタ等のイベントの際は、大学や行政関係等の研究機関、地域団体等とお互いに協働して行うことができた。水辺の生物、環境について市民の関心を喚起するため、様々な体験イベント、観察会等を企画・開催した。また、河川でのサケや淡水魚類調査の際にも積極的に市民に声を掛けて解説するなど、様々な場での取組みを進めた。

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

年齢や障がいの程度、性別、主義・主張、思想・信条、民族や言語、社会的地位や身分の違い等によって、さけ科学館の平等利用が妨げられないよう、また、利用者に不公平感を抱かせることのないよう、徹底したスタッフ教育による管理運営を行った。

- ・障がい者の利用機会の確保に努めた。
- ・子育て層が快適にさけ科学館を利用できるよう、授乳希望者への案内・対応を実施した。開館中やイベントの際はさかな館の部屋を授乳室として利用いただくよう調整した。
- ・苦情・要望・提案等の申し立てによって差別が生じないよう、スタッフ教育の徹底に努めた。
- ・施設利用に関する情報収集を常に行ってスタッフ間で共有し、館内掲示板やホームページにより、必要な情報をリアルタイムで発信した。
- ・さけ科学館で実施するイベントやプログラムの情報、河川のサケ観察情報、施設利用情報など、利用者のニーズに的確に応える情報提供を行った。
- ・団体利用の連絡情報に基づいて管理作業のスケジュールを調整するとともに、利用者が過度に集中しないよう、利用日時の調整を図った。
- ・さけ科学館の管理者側の一時的な事情により、利用者が展示物の見学や体験等の機会を逃すことのないよう、きめ細かい情報発信を行った。
- ・参加者が限られる実習等については、不公平感の排除に努め、人気の実習については、公正な抽選により参加者を決めた。

研修・指導による全スタッフの教育により、公平・平等な利用機会を適切に確保した。また、館内利用やイベント開催時、苦情発生時等の対応について、特別扱いや差別とならないように留意し、適正に対応できた。広報さっぽろ・ホームページ・ブログ等で施設・イベント等の最新情報を提供し、同時に館内掲示を実施して、広範囲への情報提供に努めた。外国人向けの表記については、必要性の高い表示を順次追加しており、今後も充実させていく。また、対話の際は、スマートフォン翻訳アプリを活用したほか、病気等の緊急時に備えて、多言語救急問診シートを常備した。

研修の実施によりスタッフの意識向上を図っていることや、外国人向けの表記を順次追加する等、多くの市民が快適に利用できるよう取り組んでいる。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

- ・HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、目的・目標を設定して環境活動に取り組んだ。
- ・光熱水の使用及びごみの排出について、それぞれ削減に努め、前年度比で電気使用量は97.5%、LPガスは91.5%、水道は82.3%、一般ごみ排出量は91%となった。

電気・LPガス・一般ごみはスタッフ全員で削減に努めた結果、いずれも減らすことができた。

省エネに対して意識的に取り組んでおり、エネルギー使用量の削減に繋げている。

・EMSの環境目標のひとつであるノー残業デーの超過勤務時間の削減について、28年度は取組み初年度としてデータ収集を実施した。
 ・環境に関する自覚教育を計4回実施した。

全スタッフで「水曜日はノー残業デー」という意識を持ち、業務の効率化を図り、エネルギー使用量の削減に繋がる事を意識して取り組んだ。
 今後もスタッフ全員で意識を共有して削減に努める。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

・統括責任者、統括責任者代理を配置した。
 ・年度当初に業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を確認した。
 ・当初の研修計画に基づき、職員研修を実施した。その他飼育技術等に関する外部の研修会・会議に参加し、さけ科学館に必要な知識・スキルの取得に努めた。
 ・さけ科学館周辺に出没する可能性があるヒグマ等への対応として、例年に引き続き、ヒグマ・エゾシカ研修会に参加した。

管理運営体制を整え、問題なく適正に業務を遂行できた。研修等は予定通り実施し、来館者への対応などに役立てることができた。

施設の管理運営に必要な職員が配置されており、適切な組織の確立がされている。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

・来館者の快適性の向上、及びスタッフを含めた安全性の確保のため、危険予測(KY)・ヒヤリハット収集票を作成し、スタッフ全員で情報を共有し、作業手順の改善に役立て、事故防止に努めた。
 ・新聞報道で除雪中の事故が多かったため、研修以外にもスタッフ全員に対して口頭により指導を実施するなど、安全確保の取組みを柔軟に実施した。

さけ科学館利用者・スタッフのケガを伴う事故は発生しなかった。
 業務災害の発生に対して、当団体全体で共有し、迅速かつ適切に再発防止措置を講じることができた。

研修等によりスタッフの意識向上に努めており、来館者の安全性の確保や快適性の向上に向けて取り組んでいる。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

定期清掃、日常清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、自動ドア保守点検、温風暖房機保守点検、駐車場・園路除雪の業務については第三者に委託し、仕様書の通り適切に実施した。

施設・設備等の委託業務は、仕様書の通り適正に実施した。

第三者に対する委託業務等の管理は、仕様書の通り適切に実施されている。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
運営協議会 3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・管理業務の実施状況について ・管理運営上の問題点、改善点について ・利用者の声について ・自主事業の実施状況について ・設備の状況について ・非公募の検討について ・長期修繕計画について
<協議会メンバー> 札幌市みどりの管理課 係長・担当職員 札幌市公園緑化協会 事業課長(さけ科学館長兼務)・さけ科学館主任(マネージャー)・職員	

運営協議会だけでなく、日頃から所管部署と連絡を密に取るようにした。
 北海道開発局や水産研究・教育機構北海道区水産研究所(以下、「北水研」)等とも河川状況やサケ・水生生物の分布状況等の情報共有に努めた。

要求水準どおり、指定管理者の主催により運営協議会が開催され、管理運営水準の向上に向けた協議を行っている。

	<p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>▼ 資金管理については、指定管理業務や自主事業等、公園ごとに区分しており、現金等の取扱いについては点検、調査を行っている。事務局経理事務担当者による現金出納簿の確認、月末締め現金出納簿と売上金口座入金状況の確認を随時行っている。</p> <p>▼ 団体の規定に基づき、預金通帳等の施錠管理や帳簿類の内部監査を年2回実施しているほか、公認会計士2名による外部監査を導入している。</p> <p>▼ 現金等の取扱いに関しては、現金取扱規定を整備しており、不祥事防止の取組みを行っている。</p> <p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>さけ科学館の施設やサービス、維持管理についての苦情等の情報については、苦情等対応報告票に記録して組織で共有する手順を整えている。</p> <p>28年度の苦情は0件であった。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼ アンケートは、来館者及びイベント等の参加者を対象に実施し、分析結果を札幌市へ報告するとともに、職員間で供覧して共有し、改善点等を次回の事業や管理運営に反映させた。</p> <p>▼ 施設の管理運営についての自己チェック・評価を実施し、内部委員や外部の有識者からの意見を参考に改善に取り組んだ。</p>	<p>札幌市の検査・監査には適切に対応した。また、改善事項等については、各公園のマネージャーが集まる営業会議で繰り返し確認し、徹底を図った。</p> <p>不正行為や事故発生未然防止のため、複数名による現金等の確認を徹底した。</p> <p>不正経理等の事故は発生していない。</p> <p>利用者から感謝やおほめの言葉をいただくことが多く、スタッフやボランティアの励みになった。</p> <p>要望・意見・苦情等に関しては、改善の機会ととらえ、今後も計画した手順に従い、適切に対応する。</p> <p>アンケートでは満足度が高い評価が得られたが、自由記述の意見・要望についても改善の材料とした。</p> <p>指定管理の計画・提案内容の履行状況を定期的にチェックすることで、目標に向けた管理運営を適切に遂行できた。</p>	<p>現金の管理については適正になされている。また、年2回の内部監査実施により定期的にチェックを行い、事故防止に努めている点は評価できる。</p> <p>苦情等への対応手続きが文書により整備されており、迅速かつ適切に対応できる体制が整えられている。</p> <p>要求水準どおり適切に行われている。</p>
--	---	--	---

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>▼ スタッフの雇用に関して、労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、健康保険法・厚生年金保険法、雇用保険法、労働契約法、育児休業・介護休業等に関する法律、労働保険の保険料の徴収等に関する法律、その他関連する法令等に基づき、主として以下のような届出・対応等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのスタッフに対し、北海道最低賃金786円(平成28年10月1日発効)を上回る時給を支給した。 ・施設で働く職員に対し、時間外労働・休日労働及び深夜残業をさせた場合、それぞれ法定割合以上の割増賃金を支払った。 ・就業規則の改正(平成28年4月1日施行)を行い、札幌中央労働基準監督署に届け出た。 ・全スタッフの就業時間や休日等について、労働基準法を遵守した。 ・スタッフに時間外労働又は休日労働をさせるにあたり、書面による労使協定(36協定)により必要な定めをし、札幌中央労働基準監督署に届け出た。 ・全てのスタッフを労災保険適用とし、条件を満たすスタッフを雇用保険に加入させた。 ・労働保険料等算定基礎賃金等の報告を北海道労働局へ提出し、労働保険料を納付した。 ・スタッフの勤務形態、家族状況等に応じて健康保険・年金保険資格を取得するよう、適切に届け出を行った。 ・年1回の定期健康診断を実施した。 ・短時間雇用管理者を選任し、北海道労働局へ届け出た。 <p>▼ 安全衛生委員会を設置し、毎月1回、各公園・施設のマネージャーが出席して委員会を開催し、職場の安全確保及び健康障害の防止に係る議題について検討し、結果をスタッフに周知して、健全な職場環境の実現に努めた。</p> <p>▼ 維持管理作業従事者を対象に、作業における安全確保や機械の取扱いに関する講習を実施した。</p> <p>▼ ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児休業等の取得奨励、職場内コミュニケーションの活性化、有給休暇取得の奨励などの取組みを行った。</p> <p>▼ 公的資格の取得支援、接遇や安全・技術等に関する内部研修の実施、優秀なスタッフや高年齢者の継続雇用など、雇用環境の整備により、市民サービスの向上等に結びつく取組みを行った。</p> <p>▼ 第三者への委託業務について、受託者に当該業務従事者の労働環境に関わる情報提供を求めた。</p>	<p>さけ科学館と本部事務局との連絡調整を密にするとともに、関係機関への必要な届出を迅速かつ確実に行うなど、労働関係法令を遵守し、すべての関係手続きについて適切に対応できた。</p> <p>当団体での労働災害発生ゼロを目指して、毎月の委員会による検証や安全講習を実施したことにより、前年度より発生件数を減らすことができた。安全な職場環境の実現と、スタッフの雇用環境の向上を進めるなかで、市民サービスの向上につなげることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th style="background-color: #cccccc;">A</th> <th style="background-color: #cccccc;">B</th> <th style="background-color: #cccccc;">C</th> <th style="background-color: #cccccc;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">法令等を遵守し、雇用環境や職場環境の維持向上に努めている。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	法令等を遵守し、雇用環境や職場環境の維持向上に努めている。			
	A	B	C	D							
法令等を遵守し、雇用環境や職場環境の維持向上に努めている。											

<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理業務の実施時には、施設の利用の支障にならないよう配慮するとともに、利用者に対し十分に案内するよう努めた。 ・さけ科学館における拾得物の取扱いは、遺失物法に基づき適正に行った。 ・真駒内公園駐車場と本館の玄関前にさけ科学館の電話番号を表示し、緊急時に利用者が通報しやすい環境を整えた。 ・緊急時のスタッフ間の連絡手段として、携帯電話による迅速な連絡が可能な体制を取った。 ・管理業務の実施に際して、当団体の過失等により札幌市または第三者等に損害を与えた場合に備え、仕様に適合した損害賠償責任保険に加入した。 	<p>敷地内での作業の際は、利用者の安全を第一に考え、作業中は声かけや周囲に注意して気を配るなど、利用者への安全配慮を適切に実施できた。</p> <p>構内での作業車両使用時には、二人一組で行うようにし、安全を確保した。</p> <p>除雪機の使用については、シーズン前に安全教育を実施し、作業中は周囲の状況に注意しながら作業を行った。また、報道等で除雪中の事故があった際は、その都度注意喚起した。</p> <p>拾得物の取扱いは、遺失物法、当協会の規定、及び南警察署の指示に基づき、適正に対応した。</p>	A	B	C	D
			<p>維持管理業務の実施時には、利用者の安全確保に努めている。また、損害賠償責任保険に加入し、事故発生への備えも行われている。</p>			

	<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館温暖房機煙突改修工事、井戸ポンプ点検整備業務、本館正面自動ドア改修業務は、札幌市と協議の上、承認を得たのち実施した。 ・定期清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、駐車場・園路の除雪については、第三者への委託により適切に実施し、仕様書の水準に達した。なお、一部日常清掃はスタッフで行い、経費削減に努めた。 <p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全・安心を最優先し、危機管理対策・対応については「予防・未然防止対策」、「初動処置・対応」、「再発防止・対応改善対策」の3段階に区分し、各段階において対策を行った。 ・年度の防災計画を策定し、4月に防災訓練を実施した。 	<p>年式の古い重要な設備等については、定期点検のほか日常的に自主点検・記録を行い、突発的なトラブルによる被害の予防に努めた。</p> <p>また、故障の可能性のある設備に関しては、札幌市と適切に情報共有した。軽微な修繕等は直営で対応したほか、必要に応じて当協会他公園の協力を仰ぎ、経費削減につなげた。</p> <p>8月の台風の際は、施設自体に被害はなかったが、隣接する河川敷地内で強風による落ち枝・倒木があり、さけ科学館や公園の利用者のことを考えて安全を確保したのち、管理者の北海道建設管理部に連絡し、情報を共有した。今後も設備に関する知識を深め、直営での修繕等により経費削減に努め、応急処置等の迅速な対応にも努める。</p> <p>火災・地震・強風への対応訓練を4月に実施し、南消防署に実施計画・結果を提出した。また、7月に南消防署の査察を受け、設備等が良好に維持されていることが確認された。</p> <p>災害の際に起こりうる事態と対応についてはスタッフ全員で話し合い、情報を共有した。</p>	<p>日常点検や定期点検の実施により、設備の劣化を早期に発見し、市と情報共有して対策を図っている。</p> <p>また、軽微な修繕を直営で行い、経費の削減に努めている点を評価する。</p> <p>南消防署と連携して防災訓練を実施する等、災害の備えを十分に行っている。</p>
--	---	---	---

(4)事業の計画・実施業務	▽ さけ科学館における普及啓発事業		A B C D
			適切に実施されているものと判断します。今後も利用者ニーズの把握に努め、より多くの方が興味を持ち、参加してもらえるような事業を計画していただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・サーモンスクール放流式 117人(計画100人) ・わくわく体験(エサやり・サケタッチ) 20回1,280人(計画1,000人) ・サケ稚魚体験放流 3回3,236人(計画3,000人) ・サケのいない時期のサケ教室 7回195人(計画100人) ・知る・みる・カニさん・ザリガニさん 109人(計画100人) ・さかなウォッチング 3回71人(計画60人) ・公開さかな調査 38人(計画100人) ・さっぽろサケフェスタ2016 3,102人(計画3,000人) ・サケの採卵実習・受精体験 9回218人(計画200人) ・サーモンウォッチング・観察会 4回299人(計画250人) ・市民フォーラム「でかけようサケのぼる川へ」167人(計画100人) <p>計8,832人(計画8,010人) ※一部実習は事前申込み制とし、応募者多数の場合は抽選で参加者を決定した。</p>	<p>28年度は計画を上回る参加者数となった。アンケートなど参加者の意見を採り入れてイベント内容の改善・充実に取り組んだ結果、参加者の満足度は非常に高かった。1月に開催した市民フォーラム2017「でかけようサケのぼる川へ」では、多くの市民に豊平川に遡上するサケの現状と野生サケの重要性を知ってもらうことができた。</p>	<p>今後も適切な回答を心掛けていただきたい。</p>
	<p>▽ 生物に関する相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の飼育・生態などに関する質問・問合せ等は計137件あり、それぞれ適切に回答したほか、必要に応じて資料の送付・書籍・専門家の紹介等を行った。 	<p>サケに限らず、水生生物全般にわたって質問を受けたが、適切な回答を心掛けた。今後も関連資料や書籍等を収集し、また、生物に関する研修会や会議にも積極的に出席して、分かりやすく回答ができるように努める。</p>	<p>積極的に地域の住民・団体とコミュニケーションを図り、良好な関係を維持している。</p>
	<p>▽ さけ科学館に関する市民の自主活動及び交流の支援業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さけ科学館ボランティアの会(登録者数約40名)では、イベント・飼育補助、施設管理補助等の活動を行った。 ・民間の活動団体である「真駒内川水辺の楽校」、「自然ウォッチングセンター」、「真駒内芸術の森緑の回廊基金」などの活動に積極的に協力した。 ・道立真駒内公園の指定管理者が主宰する「真駒内公園を育てる会」に出席した(12月16日)。出席者相互の情報を共有し、真駒内公園全体の利用促進に貢献した。 ・市民や行政・大学の研究者・さけ科学館指定管理者等の有志によって設立した「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」(swsp)の活動として、豊平川において野生サケを優先的に保全し、天然魚と放流魚の共存可能な放流についての検討や、その周辺の生態系への配慮、サケやその他魚類等の河川生息環境の改善を考え、遡上してくるサケが大きく減らないよう放流数をコントロールする「順応的管理」を導入し、豊平川に回帰するサケ親魚のモニタリング調査を共同で実施した。 	<p>ボランティア活動を積極的にサポートし、体験放流・サケフェスタ・水辺の生き物観察会等のイベントにおいても活躍していただいた。市民フォーラム2017は、札幌ワイルドサーモンプロジェクトと共催で企画・開催した。地域の団体等からの協力依頼や連携行事に対しては、今後も可能な限り協力するように努める。</p>	

	<p>▽ さけ科学館の業務に関する情報収集及び提供業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北水研などの研究機関が発行する文献や、ホームページで公表される情報を収集してスタッフで供覧し、展示・解説案内に反映させた。 ・さけ科学館研究報告として、ヤツメウナギ類の採集記録と厚別川における冬季調査の事例をまとめ、冊子の発行及びホームページで公開した。 ・業務上有益な研修会・会議等には可能な限り出席するように努めた。 ・札幌市生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク会議(5/12) ・札幌市ヒグマ・エゾシカ研修会(5/26) ・北海道区水産研究所セミナー(5/13、6/9、2/24) ・標津サーモン科学館において実務研修を実施(6/25～28) ・平成28年度さけます報告会(8/4) ・豊平川河畔林勉強会に出席(8/30) ・サケネットワーク会議(11/12) ・札幌の身近な水棲外来生物シンポジウム(3/20) 	<p>文献等の情報共有により、利用者への適切な案内・回答につなげることができた。</p> <p>北大や北海道区水産研究所等で開催された会議・セミナー等に積極的に参加し、得られた最新の研究成果等は、利用者への解説に役立てることができた。</p> <p>近年、さけ科学館の近くにもヒグマやエゾシカが出没しており、生態に関する知識を得るため、研修会に出席した。</p>	<p>外部の講習等を受講するなどして、スタッフのレベルアップを図り、管理レベルや利用者サービスの向上につなげている。</p>																			
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等</p> <p>平成28年度</p> <table border="1" data-bbox="383 896 917 1120"> <tr> <td>入館者数</td> <td colspan="2">59,355 人</td> </tr> <tr> <td>解説案内・学習対応</td> <td>88 件</td> <td>3,592 人</td> </tr> <tr> <td>外部依頼の実習等対応</td> <td>30 件</td> <td>1,786 人</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動(のべ)</td> <td>220 日</td> <td>439 人</td> </tr> <tr> <td>図書貸出</td> <td>40 件</td> <td>105 冊</td> </tr> </table> <p>▽ 利用促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケ稚魚体験放流・さっぽろサケフェスタの際は、市広報以外にも、ポスター・チラシを作成・印刷し、近隣の幼稚園・市内小学校等に配布した。また、地下鉄駅構内の無料掲示板の活用や、マスコミ取材の際にイベントの告知を入れてもらうよう依頼するなど、利用促進に繋がるように努めた。 ・講師や実習、展示などの依頼については、可能な限り受け入れ、さけ科学館のPRに努めた。 	入館者数	59,355 人		解説案内・学習対応	88 件	3,592 人	外部依頼の実習等対応	30 件	1,786 人	ボランティア活動(のべ)	220 日	439 人	図書貸出	40 件	105 冊	<p>入館者は天候や道路事情、社会情勢の影響も考えられるが、前年度比13.2%のマイナスとなった。</p> <p>利用者には満足していただけよう、スタッフ全員で丁寧な説明・解説を心掛けた。</p> <p>体験放流やサケフェスタはリピーターの参加者がとても多いが、毎年新しい発見があるイベントとなるよう工夫していきたい。</p> <p>市広報・マスコミ等を利用して、さけ科学館のPRに努めた。また、外部依頼の実習・展示協力等は、PRにも繋がるため、可能な限り受け入れるようにした。引き続き利用促進に取り組んでいく。</p>	<table border="1" data-bbox="1244 817 1436 862"> <tr> <td>A</td> <td style="background-color: red;">B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>適切に業務に取り組まれているものと判断します。施設利用者のリピーターの増加を図るとともに、新規利用者獲得に向けてイベント等のさらなる工夫に努めていただきたい。</p> <p>市広報以外のポスターやチラシ配布による告知、マスコミ等を利用した積極的な告知を評価する。</p>	A	B	C	D
入館者数	59,355 人																					
解説案内・学習対応	88 件	3,592 人																				
外部依頼の実習等対応	30 件	1,786 人																				
ボランティア活動(のべ)	220 日	439 人																				
図書貸出	40 件	105 冊																				
A	B	C	D																			

<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報は、さけ科学館ホームページや館内掲示のほか、市広報・マスコミやその他の関係団体などを通じて提供し、PRに努めた。 ・CISEネットワークや環境広場さっぽろなどでは、生体展示を行うだけでなく、さけ科学館の活動等を紹介し、PR活動を行った。 ・サケ稚魚体験放流やサケフェスタ等の大きなイベントの際は、チラシ・ポスターを作成し、配布・宣伝した。 ・ホームページは随時手直しをして利用し易さを改善し、サケ観察情報などを提供するブログには、最新情報の掲載に努めた。 ・28年度はホームページに48,969件のアクセスがあった。 <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>前回から継続指定を受けており、引継ぎ業務はない。</p>	<p>イベント情報については、マスコミの別件取材の際にも掲載依頼するなど、積極的に広報を実施し、利用者増につながった。</p> <p>館外でのイベント等では、さけ科学館のPR活動を積極的に行った。</p> <p>ホームページ・ブログでは、最新の情報発信に努め、利用者が情報を得る手段としての利用増に繋げるよう努力した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ホームページのほか、無料情報媒体を活用するなど、様々な手段で情報を発信している。今後はさらなる工夫に努めて、利用者の増加につなげていただきたい。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								
<p>2 自主事業その他</p>											
<p>▽ 自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売店営業 ・イベント物販(体験放流、サケフェスタ)、自販機設置 ・受託業務(調査業務・技術指導・種の同定業務) 7件 ・自主事業申請イベント開催数 13件(その他のイベント等は本来業務) ・外部に対する講師派遣、展示協力、調査研究協力等 104件 <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期清掃などの第三者委託業務は、市内企業に発注した。 ・売店商品の一部は、「元気ショップ いこ〜る」から仕入れた商品を販売した。 	<p>受託業務は、本来業務に支障のない範囲で行い、得られた知見は教育・解説活動等に役立った。</p> <p>売店では、就労支援施設等で製作されたサケにちなむ小物などを販売し、好評を得られた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>本来業務であるさけの研究に関する業務以外にも、水生生物についての調査研究や教育活動に力を入れることで施設の価値を高めている点を評価する。</p> <p>外部への委託、物品購入について、市内企業の優先的な活用や福祉施策への配慮がなされている。</p>	A	B	C	D					
A	B	C	D								

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果			A	B	C	D
実施方法	館内にアンケートボックスを設置した。また、サケフェスタ・体験放流等のイベントで、対面式アンケートを実施した。 各満足度についての札幌市の要求水準(80%)に対して、目標値を+5%の85%に設定した。	アンケート結果では、4段階評価から5段階評価に変更になっても、総合満足度・接遇満足度ともに、高い評価を得ることができた。今後も来館者が楽しく見学でき、満足いただけるように努力する。 イベント満足度では、非常に高い評価を得られたが、今後も新しい企画を検討して提供し、来館者・イベント参加者を飽きさせないように努力する。	全ての満足度について要求水準を上回ったことを評価する。今後も利用者の満足できる内容となるよう努力していただきたい。			
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> さけ科学館に対する総合満足度 大人:87.9% (回答数405件) 子ども:86.5% (回答数111件) 接遇に対する満足度:88.6% (回答数411件) イベントに対する満足度:98.1% (回答数1,285件) 					
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 面白かったです。疑問にもスタッフの方が丁寧に説明して下さいました。 水槽がきれいで、とても観察しやすい。スタッフがやさしい。ありがとうございました。 近年は展示にも大変楽しい工夫がされ、時々フワリと来たくくなります。老朽化が気になるところですが気軽に魚が見られる場所として長く続けてほしいと思っています。 施設が古いです。 もうちょっと色々な魚を出したらいい。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も来館者への対応は丁寧な言葉遣い、分かりやすい説明に気をつけ、来館者が満足できるように心掛ける。 バリアフリーや施設の改修等については、今後も改修を含めて検討し、札幌市の担当部署と引き続き協議していく。 					

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	計画	決算	差
収入	38,901	40,989	2,088
指定管理業務収入	37,231	37,887	656
指定管理費	37,231	37,231	0
利用料金	0	0	0
その他	0	656	656
自主事業収入	1,670	3,102	1,432
支出	38,901	39,332	431
指定管理業務支出	38,061	38,112	51
自主事業支出	840	1,220	380
収入-支出	0	1,657	1,657
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	0	1,657	1,657

▽ 説明

- ・自主事業では、売店でサケや水辺の生き物にちなむ小物・書籍等のほか、体験用のエサ2種類(イトウ用とその他サケ科魚類用)を販売した。
- ・自主事業収入として、外部から魚類調査や産卵床移設業務、魚類標本同定などの業務を受けた収入の合計が1,457千円となった。外部から都度、業務の打診があり、本来業務との調整により受託可能か判断するため、予算には計上していない。
- ・支出では、電気・ガス・水道などの光熱水費について日頃から節約に努めたほか、暖房の設定温度を支障のない範囲で下げるとともに使用時間を記録するなど細かく管理して対応し、軽少な修繕は直営で行うようにした。
- ・以上のことから、全体で1,657千円の黒字となった。

受託業務は、札幌市内外の河川におけるサケ等の生態調査をはじめ、魚類標本の同定や産卵床移設など、さけ科学館職員の知識・経験を活かして対応できる業務を受けている。今後も本来業務に支障をきたさない範囲で積極的に受託し、差益を施設運営費に充当し、また業務で得られた知見を利用者に還元することにより、教育普及にも役立てていきたい。エサやりは、小さい子どもでも簡単にできる体験のため、無料体験のない日でもエサやりができるよう販売していることは、利用者に大変好評であった。今後も販売を継続し、収支と利用者サービスの向上に努めていく。

A	B	C	D

自主事業収入が計画を上回ったこと、光熱水費の節約に努めていることを評価する。今後も可能な限り経費の削減を図り、利用者ニーズに沿うような収支のバランスに努めていただきたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

- ▽ 安定経営能力の維持
 - ▼当団体の財務状況等は、平成28年度、赤字決算になる見込みはなく、運営安定化積立資産の留保金もあるため、安定経営能力に問題はない。
- ▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応
 - ▼各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
 - ▼情報公開請求はなかった。
 - ▼当施設の管理等に係るオンブズマンの現地調査はなかった。
 - ▼施設使用者に対する告知として、暴力団活動や暴力団の資金源となる活動に施設を使用できない旨の文書を管理事務所に掲示した。
 - ▼物品購入や業務の委託等に際して、暴力団員や暴力団関係事業者を相手方としないよう徹底した。

適	不適
---	----

適	不適
---	----

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p><利用状況> 平成28年度の入館者数は、悪天候や利用環境悪化などの影響が大きく、前年度比13.2%減の59,335人だった。ゴールデンウィークの体験放流では、連休の関係で1日少ない3日間の開催となったが、コップに入れたサケ稚魚を間近に観察できることから、大変好評を得られた。7,8月の夏休み期間は、雨天が続いたり台風が続けて上陸するなど、天候の影響により入館者数が伸びなかった。</p> <p>11,12月は記録的な大雪や低温により、周辺の道路事情が長期間にわたり極端に悪化し、来館者数にも大きな影響が出た。</p> <p>2月は冬期アジア大会の会場となった真駒内公園で駐車場の一般利用が大きく制限された。</p> <p>サイエンスフェスティバルin新千歳空港及びちかほでは、道外観光客や市民の方にさけ科学館の紹介をし、PR活動につなげることができた。</p> <p>来館者には親切・丁寧な説明・案内をするように心掛け、満足して頂けるようにスタッフ全員で対応できた。</p>	<p><利用について> 体験放流は、例年開催しているイベントのため、リピーターの参加者がとても多い。毎年参加しても新しい発見があるようなイベントになるよう、今後も継続して取り組みたい。</p> <p>河川工事等の相談を受けた際は、サケだけではなく周辺の生態系も考慮して適切に助言・対応したい。また、考えられる新しい手法を積極的に提案していきたい。</p> <p>近年、サクラマスの遡上が増えており、「サケではないか?」との問合せを多く受けている。サケに限らず、サクラマスについても知ってもらうことで、河川環境に関心を持つきっかけとなるよう、今後も丁寧な説明を心掛けたい。</p> <p>さけ科学館には、自家用車・バスを利用して来る方が多く、特に冬期は積雪により周辺道路がたびたび大渋滞となり、来館者数にも影響が出てしまうが、このような状況でも来ていただける来館者に満足してもらえるよう、今後もスタッフ全員で親切丁寧な対応を心掛ける。</p>
<p><教育普及> 予定していた体験イベント等は、一部の實習で延期があったものの、すべて実施できた。6/11に開催した「知る・見る・カニさん・ザリガニさん」では、北海道生物多様性保全課と協働で、外来種についての普及啓発を実施した。</p> <p>6月の「知る・見る・カニさん・ザリガニさん」は、北海道生物多様性保全課と協働で実施し、多くの参加者に対して、さわる体験のほかに、生態などをプロジェクターで説明した。特に28年度は北海道生物多様性条例の施行に合わせて、アメリカザリガニの問題についての普及啓発を実施した。</p> <p>外部協力では、多数の實習、講師派遣・職場体験等の依頼を受け、可能な限り対応した。サケフェスタは多数の団体の協力を得て、環境に関わる体験イベント等を盛り込んで開催できた。職場体験・博物館實習では、将来さけ科学館のような施設で働きたいと考えている学生のために、様々な体験ができる實習内容とした。28年度は道外からの職場体験を初めて受け入れ、北海道ならではの作業として、除雪などの施設管理も経験してもらった。</p> <p>琴似発寒川や星置川で実施した自由参加型のサケの観察会は、多数の参加者で賑わった。豊平川以外の市内の河川でのサケやサクラマスの遡上状況や生態について分かりやすく解説できた。</p> <p>このほか、札幌ワイルドサーモンプロジェクトに参加している札幌河川事務所から豊平川の工事に係る助言を求められた際に、サケの産卵環境造成についても提案し、連携して実施に移せたことは、新たな成果としてとらえている。</p>	<p><教育普及について> 北海道の生物多様性保全課や札幌市の環境管理担当課とは、今後もお互いに協力し合い、外来種問題の普及啓発等に取り組んでいきたい。市内における水辺の外来種問題については、さけ科学館が対応している場面が多く、問合せも多数あるため、今後も外来種問題のシンポジウム等があった際には、積極的に参加して普及啓発を実施していく。</p> <p>生き物観察会等の依頼は、市内に生息するサケや水辺の生物の教育普及のほか、さけ科学館のPR・利用促進にも繋がるため、今後も可能な限り対応したい。</p> <p>職場体験や博物館實習の受入れでは、環境教育施設としての社会的役割を果たすとともに、将来、博物館等の施設で働きたい学生のサポートにもつながることから、今後も可能な限り受け入れたい。また、道外からの職場体験は、道民のサケに対する意識・生活等を知ってもらうことも有意義であったため、今後も依頼があれば可能な限り対応したい。</p>

<施設管理>
 設備に関する重大な事故の発生はなかった。
 7月の南消防署による査察では、設備等の良好な維持が確認された。また、市建築保全課との施設補修の打合せでは、早急に対応してもらえるよう、細部まで状況を説明した。
 8月の台風の際は、施設に被害はなかったが、隣接する河川敷地内で強風による落ち枝・倒木があった。さけ科学館/や公園の利用者のことを考えて安全を確保したのち、管理者の北海道建設管理部に連絡して、適切な情報共有ができた。
 温風暖房機の煙突断熱材(石綿)緊急点検において、断熱材の経年劣化による剥離が確認され、速やかに煙突上部を塞ぐ飛散防止処置を実施し、また担当部署と密に連絡を取り、来館者に不安感を与えぬよう対応できた。また、代替の暖房としてブルーヒーターを提案・導入して従来並みの暖かさを維持し、利用環境に大きな支障を出さずに対応できた。
 井戸整備の際は、飼育用水が減水するため業者と密に連絡を取り、こまめに給水量の調整を行った結果、トラブルなく良好に展示・飼育生物を飼育できた。
 正面自動ドアは、開館時間中に改修作業を実施したが、事前に業者と来館者の通行に関して打合せをし、トラブルなく対応できた。

<飼育管理>
 飼育生物は、問題なく順調に飼育する事ができた。
 サケ稚魚は、スタッフ全員で注意してみるように気をつけ、こまめな掃除・飼育器具の消毒を徹底した結果、魚病を出さず健康に飼育できた。また、井戸点検整備の際には、水量が減少し給水が止まることも想定して、酸欠防止のエアレーションを設置して対応した。その他のサケ科魚類・淡水魚等も、密度の調整・給排水・掃除の状況に留意し、健全に飼育できた。
 9月の豊平川捕獲第1号のオスザケはさけ科学館に収容し、専用の水槽に展示して報道機関に情報の投げ込みを行い、テレビ等のマスコミの取材を受けた。
 28年度の全道的なサケの不漁に伴い、11月下旬から千歳川のサケも不漁となり、サケ親魚の予定数を確保できない状況となったが、日本海増協の担当者と連絡を密にし、遡上状況に合わせて臨機応変に親魚を受け取りに行くことで、必要な親魚数、卵数を確保できた。
 (国研)水産総合研究センター北海道区水産研究所主催のさけます報告会や同リサーチセミナーに複数回出席し、最新の研究情報やサケマス資源の動向を学び、教育普及に活かすことができた。

<施設管理について>
 今後の市建築保全課との打合せについても、連絡を密にし、状況を細かく伝えて対応したい。
 隣接する河川敷で倒木等が発生した際は、今回同様、責任の範囲外であっても、公園利用者の安全を考え、迅速に管理者と情報を共有するようにしたい。
 さけ科学館で使用している井戸は小学校に設置されているため、点検整備の際は業者・小学校と連絡を密にし、安全・円滑に進められるようにする。開館時間中の施設の工事の際は業者と密に打合せをし、来館者の安全を最優先して対応する。
 さけ科学館で使用している井戸は小学校に設置されているため、点検整備の際は業者・小学校と連絡を密にし、安全・円滑に進められるようにする。開館時間中の施設の工事の際は業者と密に打合せをし、来館者の安全を最優先して対応する。
 今後も担当部署と連絡を密にし、緊急の際にも問題なく対応できるように取り組んでいく。施設・設備に関するトラブルについて、スタッフ全員で気をつけて見るようにし、早期の異常発見に努める。

<飼育管理について>
 今後も、スタッフ全員でトラブルを未然に防ぐように努め、健全な状態で展示生物を飼育するように努力する。
 サケ稚魚飼育の際は、今後も円形水槽を活用し、効率的な餌付けを実施する。また、井戸点検整備の際は、水量減少により飼育魚が斃死するリスクが高まるため、今後もあらゆるトラブルを想定し、スタッフ全員が対処できるよう万全の備えを取る。
 飼育管理作業中は、来館者と積極的にコミュニケーションをとり、水槽掃除中でも気持ち良く見学ができるように心掛ける。
 サケ不漁時の対応について、さけ科学館で必要とする親魚数・卵数は、増殖目的のふ化場と比べると極端に少ないことから、今後も日本海増協の担当者と連絡を密にして、臨機応変な対応で確保に努めたい。
 サケに関する研修・会議については、飼育技術だけでなく、サケに関わる教育現場の現状も知ることができ、館の活動に役立つ内容も多いことから、今後も積極的に参加していく。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
全般について要求水準を上回っており、安定した管理運営が行われている。また、光熱水費の節約や軽微な修繕を直営で実施する等、経費の節減に努めていることは評価できる。 今後の課題として、利用者が減少傾向にあるので、利用者からの要望やニーズを聞き入れることや広報のさらなる工夫により利用者の増加に努めていただきたい。	上記の所管局評価を参照。